# 令和3年 9月「月 報」

#### 1 はじめに

デルタ株による新型コロナウイルスの新規感染者の全国への拡大を受け、政府は、8 月17日及び25日の新型コロナウイルス感染症対策本部分科会において、次の表のと おり、「緊急事態宣言」の追加発令と、「まん延防止等重点措置」の適用を決めました。

	すでに継続中	8月17日の決定	8月25日の決定	合 計
緊急	東京都、大阪府、	京都府、茨城、	北海道、宮城、岐阜、	2 1
事態	埼玉、神奈川、	栃木、群馬、静岡、	愛知、三重、滋賀、	都道府県
宣言	千葉、沖縄	兵庫、福岡の7府県	岡山、広島の8道県	9月12日
	の6都府県			まで
まん延	北海道、福島、	宮城、山梨、富山、	高知、佐賀、長崎、	12県
防止等	愛知、石川、	岐阜、三重、岡山、	宮崎の4県	(青字の県)
重点	滋賀、熊本	広島、香川、愛媛、		9月12日
措置	の6道県	鹿児島の10県		まで

本会は、9月15日に愛媛県(松山市)において、防衛講演会を予定していましたが 上記のとおり、愛媛県へのまん延防止等重点措置が9月12日まで適用され、防衛講演 会場の確保が困難などの理由により、止むを得ず「中止」を決定しました。

一方、コロナ禍の中、2020パラリンピックが、24日から開催され、防衛省自衛隊は、支援団をもって競技会場警備や 国旗掲揚等の支援を行っています。

また、パラリンピック開会式において、ブルーインパルスが、パラリンピックシンボルのスリーアギトスと同じ赤、青、緑のカラースモークをなびかせ東京上空で展示飛行を行い、多くの国民を励ましました。



ブルーインパルス飛行

## 2 防衛省・自衛隊の活動

#### (1) アフガニスタン・イスラム共和国における在外邦人等の輸送

8月16日早朝、アフガニスタン・イスラム共和国(以下アフガニスタン)では、 反政府武装勢力タリバンが首都カブールに進攻、政府に対する勝利を宣言しました。

一方、現政権のガニ大統領は出国し、政権が事実上崩壊しました。これに伴い、アフガニスタンから出国を希望する邦人らの安全な退避が、国際社会の喫緊の課題となりました。政府は、8月23日、国家安全保障会議(NSC)を開き、自衛隊法84条の『在外邦人等の輸送』を決め、同日、岸防衛大臣は、アフガニスタンでの邦人等の輸送を自衛隊に命じました。

24日未明以降、空自の $C-2\times1$ 機、 $C-130\times2$ 機の輸送機及びB-777特別輸送機 $\times1$ 機をもって約260名の自衛隊員を派遣し、パキスタンのイスラマバード

空港を拠点としてアフガニスタンのカブール空港での邦人などの掌握、輸送を行う計画でした。

26日にカブール空港周辺で過激派組織イスラム国(IS)による大規模な自爆テロが発生する中、26日から27日の間邦人1名及びアフガニスタン人14名のイスラマバード空港への輸送を行いました。



輸送機に搭乗する隊員

31日、岸防衛大臣は、在アフガニスタン・イスラム共和国邦人等の輸送の終結 を命じました。命令により派遣部隊は、今後速やかに本国へ帰国する予定です。

#### (2) 令和4年度防衛関係予算概算要求

8月31日、防衛省は、令和4年度防衛関係予算として約5兆4千8百億円の概算要求(対前年度当初予算2.6%増の過去最大規模)を行いました。

岸防衛大臣は、「安全保障環境がこれまでにないスピードで厳しさを増す中、防衛力を大幅に強化し、多次元統合防衛力を構築したい」と記者会見で述べました。

以下、概算要求の概要を紹介します。(細部は、防衛省 HP をご参照ください)

## ア 宇宙・サイバー・電磁波等の領域における能力の獲得・強化

## ◇ 宇宙作戦群(仮称)の改編

既存の宇宙作戦隊は、第1宇宙作戦隊(仮称)に改編し、宇宙空間の状況を常時継続的に監視する体制を構築するため要員を拡充、我が国の人工衛星に対する電磁波妨害状況を把握するため第2宇宙作戦隊(仮称)を新編するとともに、宇宙領域に関する装備品を維持管理する宇宙システム管理隊(仮称)を新編。

#### ◇ 偵察航空隊(仮称)の新編

我が国から比較的離れた地域での情報収集や事態が緊迫した際の空中での常時継続的な監視を実施し得るよう滞空型無人機 (RQ-4B) の運用強化。このため臨時偵察航空隊を廃止し、偵察航空隊を新編。

#### ◇ 石垣島における部隊配置

自衛隊配備の空白地域となっている島嶼部への部隊配置のため、石垣駐屯地 (仮称) に警備部隊、中距離地対空誘導弾部隊、地対艦誘導弾部隊を配置。

## ◇ 輸送船舶の取得

島嶼部への輸送機能を強化するため、中型級船舶(LSV)1隻、小型級船舶 (LCU) 1隻を取得。

#### イ 従来領域の能力強化

固定翼哨戒機 (P-1) 3機の取得、護衛艦2隻の建造、潜水艦1隻の建造、戦闘機 (F-35A) 8機、戦闘機 (F-35B) 4基の取得、戦闘機 (F-15) の能力向上 (予算額は計上せず)、16式機動戦闘車33両の取得、多用途へリコプター (UH-2) 13機の取得などを計上。

#### ウ研究開発費

高出力マイクロ波(HPM)照射技術の実証や将来レールガンの研究、AI技術を適用した研究などのゲーム・チェンジャとなり得る最先端技術に関する取組や次期戦闘機に関する取組などで、3、257億円を計上。

#### エ 自衛隊員の食事の充実

営内居住、艦船乗組員等の自衛隊員の栄養摂取基準見直しに伴う糧食費の充実。

#### オ 自衛官の増員

新たな領域における防衛態勢及び南西地域における防衛態勢並びに周辺海空域の 防衛態勢等の充実・強化を図るため自衛官の実員を増員し、各種事態への即応性を 向上するとして、2、454人の増員を要求。

#### (3) 青森県風間浦村における土砂災害に係る災害派遣

台風第9号から変わった温帯低気圧の影響により、北日本では8月9日~10日にかけて大雨となり、青森県むつ市及び風間浦村を結ぶ国道279号線において落橋、 土砂崩れ等が発生し、風間浦村民等約800人が孤立しました。

8月10日、青森県知事からの救援物資輸送に係る災害派遣要請を受理した亀山第9師団長は、第5普通科連隊(青森駐屯地)の隊員約80名をもって、青森県が用意した水や食料等の救援物資を風間浦村へ輸送するとともに、第9施設大隊(八戸駐屯地)をもって17日まで流木の除去などを行いました。



支援物資の輸送を行う第5普通科連隊

#### (4) 令和3年8月の大雨に係る災害派遣

8月11日から停滞した前線の影響で日本各地で大雨が続き、特に九州地方や広島県、岐阜県で大雨による災害が発生。防衛省・自衛隊は、70箇所の自治体等に対し約160名の連絡員を派遣し、自治体との調整に当たるとともに、次のとおり災害派遣を行いました。

### ア 長崎県雲仙市における災害派遣活動

13日未明に長崎市雲仙市において発生した土砂崩れに関し、同日1545、長崎県知事から安否不明者の人命救助に係る災害派遣要請を受理した陸自第16普通科連隊長(福添哲生1等陸佐、大村駐屯地)は、翌14日、第8航空団(築城)とともに、約70名の態勢(災害救助犬×2頭含む)をもって人命救助活動を開始しました。



人命救助活動中の隊員

19日、長崎県知事からの撤収要請により派遣活動を終了しました。

#### イ 佐賀県武雄市における災害派遣活動

14日午前、佐賀県の六角川が氾濫、同日1045、陸自西部方面混成団長(古

庄1等陸佐、久留米駐屯地)は、佐賀県知事から人命救助に係る災害派遣要請を受理し、西部方面特科連隊(久留米駐屯地)等の隊員31名をもって人命救助活動を行いました。

また、陸自第5施設団(小郡駐屯地)は、渡河ボート(大型)3隻をもって、海自佐世保水中処分隊(佐世保基地)の隊員6名は、ゴムボート×2隻をもって、それぞれ武雄市においてそれぞれ人命救助活動を行いました。18日、佐賀県知事からの撤収要請により活動を終了しました。



救助活動中の佐世保水中処分隊

#### (5) 新型コロナウイルス市中感染拡大防止に関する災害派遣(第15旅団)

8月12日、玉城沖縄県知事からの災害派遣要請を受理した佐藤第15旅団長(那

覇駐屯地)は、新型コロナウイルス市中感染 拡大防止のための災害派遣を実施しました。

第15旅団は、8月12日から25日の間、 看護官等5名を、県が運営する入院待機ステーションに派遣し、医療支援(医師の診療の 補助、検温、血圧測定、生体監視装置の装着、 モニタリング等)を行いました。



医療支援中の派遣隊員(左2人目)

#### 3 家族会の活動

# (1) UNMISS 司令部要員への激励

8月3日、UNMISS 司令部要員として派遣される施設幕僚の有薗光代3等陸佐及び情報幕僚の原田寿幸1等陸尉に対し、「自衛隊の活動支援基金」による慰問・激励品(目録)を土谷事務局長から贈呈し、現地での活躍をお祈りしました。



司令部要員へ激励品を贈呈

#### (2)情報収集活動のために派遣される水上部隊(第6次隊)への激励(京都府家族会)

8月28日、京都府家族会(小川清会長)は、中東地域における日本船舶の安全確保 に必要な情報収集活動のために派遣される第6次水上部隊(護衛艦「ふゆづき」)への 本会からの慰問・激励を担任しました。

当日は、米田利平舞鶴地区自衛隊家族 会会長が舞鶴基地を訪問し、第3護衛隊 司令(濱崎真悟1等海佐)及びふゆづき 艦長(大瀬光一郎2等海佐)へ、本会及



び京都府自衛隊家族会からの慰問・激励 品を合わせて贈呈しました。

## 米田会長(左)大瀬艦長(中)濱崎3護隊司令(右)

#### (3) 静岡県熱海市の土石流災害派遣部隊への慰問・激励(静岡自衛隊家族会)

7月3日、熱海市伊豆山地区で土石流災害が発生。 直ちに陸自第34普通科連隊(板妻駐屯地)の隊員が、 派遣され、行方不明者の捜索活動が続けられました。

7月10日、静岡自衛隊家族会(國松会長)は、猛暑 の中、腰まで泥水に浸かって必死に捜索活動を行う隊員 たちを労うため、慰問・激励品を届けました。



慰問品を届ける國松会長

#### (4) コロナ禍の市街地募集広報(岐阜県家族会可児御嵩支部家族会)

7月2日、岐阜県家族会可児御嵩支部(加藤巌会長)は、 JR可児駅及び名鉄新可児駅において、岐阜地本美濃加 茂地域事務所(所長:吉永1等陸尉)の所員5名とともに 市街地募集広報を行いました。

始めは、募集広報用の封筒をなかなか受け取ってもら えず苦労しましましたが、次第にマスク越しに「おはよ うございます、陸・海・空自衛官募集中です!」と小声 ながら渡すことができ、時には笑顔で「ありがとうござ います」との学生の返事に清々しい一時を過ごすことが できました。



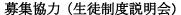
地本の所員とともに



募集広報を行う会員

## (5) コロナ禍での家族会活動スナップ

コロナ禍での防衛講演会





第36普連長(伊丹駐)表敬



小田原地区会(石原会長)

愛知県瀬戸地区家族会(臼田会員) 伊丹家族会(髙木会長)

### 4 事務局からの連絡

- (1) 令和3年度定期総会、表彰式及び第4回理事会は、次のとおり開催を予定します。
  - 日時: 令和3年10月13日(水) 1230~1700

- 場所:グランドホテル市ヶ谷
- 総会、表彰式、理事会の順で実施します。
- 新型コロナウイルス感染防止を考慮し、式典及び意見交換会は中止します。
- (2) 令和3年度募集協力者会同は、新型コロナウイルス感染防止を考慮し中止します。 以上